

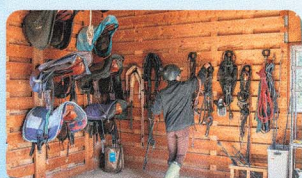
徐々にスピードを上げ、入念にウォーミングアップしてから飛越練習を行う

LIFE with HORSES

部員たちは、平日は朝7時過ぎに餌をやり、さまざまな作業をしてから登校。放課後も厩舎に来て、騎乗練習後、馬たちのケアを行う。部員たちの日課を紹介する。



騎乗の際には、馬の体にさまざまな馬具を装着する



鞍や頭絡、鞭など、乗馬に必要な道具は常に整理整頓を心掛ける



餌は決められた量を与える。在庫チェックも忘れない



練習後は体全体をタオルやブラシで磨き上げる

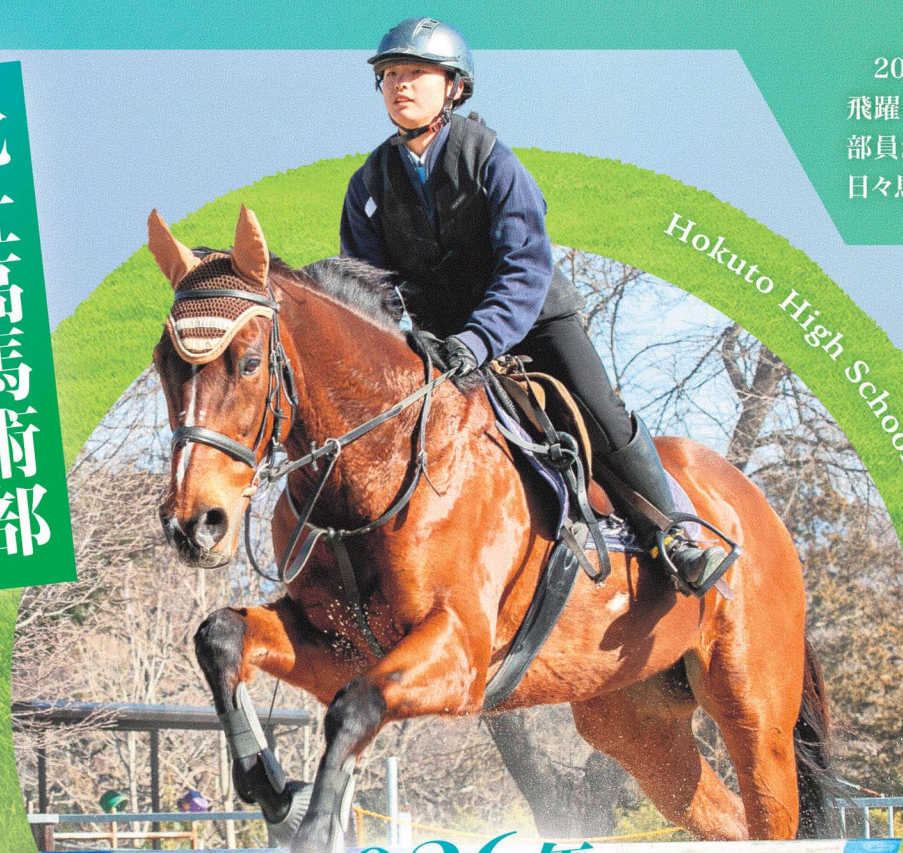


厩舎内外はこまめに掃除をする。馬場の整備も行う



乾燥対策に蹄油を塗ってひび割れ予防。ひづめのケアも怠らない

北杜高馬術部



Hokuto High School Equestrian Club

2026年 夢へ駆ける！ 人馬一体 飛躍の年に

2026年の干支は午。午年は馬が勢いよく前進していくような力強いエネルギーに満ちた飛躍の年といわれている。県内唯一の馬術部がある北杜高では、現在4頭の馬を飼育し、部員が毎日世話をしている。全日本高校馬術競技大会で優勝した実績のある馬術部で、日々馬と触れ合い、信頼関係を築きながら技術向上に励む生徒たちの活動を取材した。



厩舎から馬場へと、慣れた手つきで誘導する

日々命と向き合うことで、人馬の絆が育まれる馬術部。午年の今年、さらなる成長と飛躍を誓う。

北杜高馬術部の理念は「馬ファースト」。パートナーである馬の世話は重要な活動で、部員たちは毎日厩舎を訪れ、餌やりや水の交換、馬房の掃除などを交代で行う。指導するのは、同校馬術部OGの顧問・福島ひとみ教諭。「馬がいなければ成り立たない部活動なので、なにより馬を大切にしている。馬術は個人競技だが、馬の世話すべてを一人ではできないので、部員同士仲良く

協力することも必要」と語る。冬場のオフシーズンは、新年度の大会に向けて基礎練習に励む時期。練習の時間になると、騎乗の準備を整えてから、馬を練習場に移動させる。まずはゆっくり歩かせ、徐々にスピードを上げてから飛越練習に取り掛かる。岩田七海部長は「7大会連続で全国大会の団体戦に出場していたが、昨年は人数が足りず予選出場を諦めた。2026年度は、全国大会予選に出場し、7月の全国大会出場を目指して頑張ります」と意気込む。

峡北農業高時代から受け継がれ、43年の歴史がある。馬の世話は当番制で、大型連休や年末年始も交代で活動。入部希望者募集中



教えて！

福島ティーチャー馬術部Q&A

Q 初心者でも大丈夫ですか？

A 最初は怖いかもしれませんが、馬の世話には数日で慣れ、乗馬も約2週間で基本的な動作ができるようになります。馬に乗って走れるようになったら、障害物を跳び越える練習に取り組みます。公式大会に出場するには全日本高校馬術連盟が定める騎乗資格が必要なので、資格の取得を目指して練習しています。

Q 馬術ってお金がかかりますか？

A 生徒自身が身に着ける道具は購入してもらいますが、馬術の道具は一度購入すれば3年以上使用できます。その他については、代々受け継がれてきた道具をメンテナンスしながら大切に使用しているため、購入の必要はありません。馬の餌代はもちろんです、大会に出場する際の遠征費なども生徒が負担することはほとんどありません。

Q 馬術部員として心掛けることは？

A 馬術は馬がいなければできないスポーツ。自主練習をすることができないので、部活動の時間にいかに集中して取り組むかが重要です。日頃の言動や生活態度が馬への接し方や練習にとっても影響するので、騎乗技術を上げることだけでなく、自身について考えることも必要です。

Hinata Yamawaki

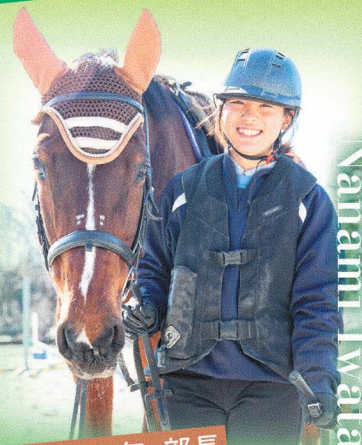
北杜高1年
山脇ひなたさん
&ホクトウルフ

馬術部は馬の世話が大変できついと思われがちですが、毎日厩舎に来なくなるほど馬がとてもかわいし、社会人になっても役立つ貴重な経験ができます。初めての大会では緊張して練習の成果が出せなかった、今年では大会で良い成績を残し、受験では目標の大学に進学できるよう、勉強と部活動を両立したいです。

動物と触れ合う仕事に興味があったので入部しました。部活動で一番楽しいのは、乗っている時よりも世話をしている時間。毎日忙しいですがとてもやりがいがあり、どんどん愛着が湧いてきて、将来動物に関わる仕事をしたいという気持ちがさらに大きくなりました。大会では悔いの残らないよう練習の成果を発揮したいです。

北杜高1年
雨宮龍蔵さん
&ホクトダンサー

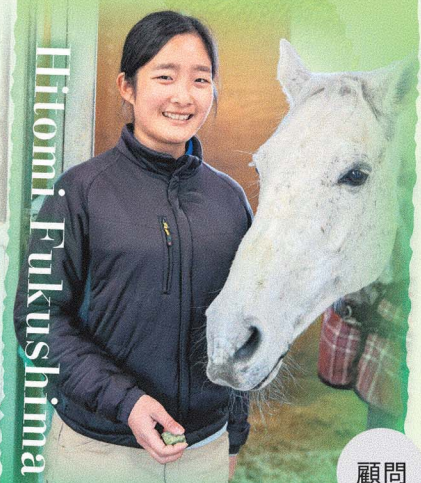
MEMBERS



北杜高2年・部長
岩田七海さん
&ホクトアポロン

競馬中継で見た馬がとてもしっかりと、自分も乗ってみたい。北杜高に入学しました。実際に触れてみると、馬は甘えん坊でかわいく、馬のいない生活はもう考えられません。部長としては、部員とよくコミュニケーションを取ることを心掛けています。大会で昨年以上の結果を出せるよう練習を頑張ります。

母校の馬術部の顧問になり3年目です。馬術部の一番の魅力は、人馬の成長を間近で見られること。飼育と騎乗技術の指導は専門的で難しいですが、大会で良い成績を残す以上に、日々の活動が生徒自身の達成感や成長につながることを大切にしています。



顧問
福島ひとみ教諭
&ホクトグリーヴァ